

多波長データ解析システム 計算機リソース使用のガイドライン

ユーザの皆様

日頃のご利用ありがとうございます。

多波長データ解析システムのご利用にあたり、お願いになります。

対話型解析サーバ (kaim*, kaih*) において、少数のユーザで多くの CPU・メモリ等の計算機リソースを長時間占有する事例が確認されております。そのような状況は、他ユーザの作業に影響を及ぼしたり、処理の集中によってサーバに不具合を発生させる原因にもなります。

例えば、CPU コアを占有した場合は、特定ホストのローカルディスク内にあるデータへのアクセスが困難になり、他ユーザの作業に多大な影響を与える場合があります。そのような状況を避けるために、1 ホストにおける CPU コアの利用上限を 8 コア程度にして頂ければと思います。

また、対話型解析サーバ群を同時に多く使用することも避けて頂ければと考えています。対話型解析サーバ群の同時利用の上限は、10 ホストを目安にして頂ければと思います。

なお、リソースの占有によって他ユーザの作業に影響を及ぼした場合は、注意・警告の連絡をさせていただきます。また、注意・警告後も状況が改善されない時は、リソースを占有しているプロセスの強制停止も検討いたします。

またガイドラインに則った利用であっても、利用者が増えてシステムに過大な負荷がかかり、レスポンスが悪くなるなど利用に支障をきたす場合には 負荷解消を目的としたプロセス強制停止を行う場合もありますので、ご了承頂ければと思います。

皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

2019 年 9 月

天文データセンター